

BSC 体操教室 報告書

松山 尚道

筆者は地域スポーツコースに所属しており、ゼミでは子どもにおける運動指導というものをテーマにして、演習を行っているところが、実際の指導現場を体験するとなると、どうしても学外に出でいかざるを得なくなってくる。そこで総合型地域スポーツクラブNPO法人BIWAKO SPORTS CLUB（以下BSC）と協力し、本学においてBSC体操教室を開講し、そこで学生の実習の場を兼ねて地域の子供たちに器械運動種目の指導を行った。

指導する学生については体操競技を専門とする学生ではないため、難易度の高い運動を志向するという方向性ではなく、学校体育において十分に対応できる程度の技能の習得を主な目的として行った。具体的な指導内容としてはマット運動（前転・後転・側方倒立回転・倒立など）、跳び箱運動（開脚跳びなど）、鉄棒運動（逆上がり・後方支持回転など）、トランポリンなどである。

実際の指導については、参加学生の担当者を決め当日までに指導内容を考えさせる。そして学生が主体になって器具の配置の仕方、練習の時間配分から実際の指導までを行う。筆者は全体を見渡ししながら、その時々にはアドバイスやサポートを行い、また終了後にフィードバックを行い次の教室までの改善点や課題を示した。

参加した学生からは「考えていた通りにできなかった」「思ったより参加者が多くて（少なくても）予定していたことと違って戸惑った」というような実践の場での苦労を知ることができた旨の発言や、「最初は子ども達がなかなか話してくれなかったが徐々に馴染んできて、最後には笑顔で話しかけてくれた」「子ども達が上達するのを見てうれしくなった」というような指導の上での喜びに対する発言などが聞けた。机の上で考えている内容と実際の現場での違いを肌で感じるができる経験としてよい機会になったのではないだろうか。

最後に、今後の課題としては本学の施設利用に関する課外活動団体との摺り合わせの問題で、休日に行わざるを得なかったため参加学生の確保が困難になる場合があった。ある程度の指導の質を向上させるため、ゼミ生のみで行い、その内容をゼミ演習の時間を使ってフィードバック等をした為である。今後は人数確保のため対象学生の門戸を広げつつも指導の質を下げないことが重要になるだろう。またそのためには開講日や開講時間の見直しも必要となるだろう。



壁倒立の練習風景



鉄棒の練習風景



側方倒立回転（マット運動）の練習風景